

日本で学ぶ日本語学習者の外来語の習得

上野山 愛弥 (京都外国語大学)

中川 良雄 (京都外国語大学)

1. はじめに

語彙の習得は第二言語習得における重要項目であるが、日本語学習者の多くにとって外来語の習得は容易ではないと考えられる。しかし、外来語は日常生活の中で増え続けており、今後の語彙教育において重要項目となる。本研究は外来語の習得に関する調査をし、分析を行うことを通して日本語学習者の外来語の習得に関わる要因を知ることがを目的として行った。

本研究では、日本で学ぶ学習者の外来語の習得にはどのような要因が影響しているかを考察していく。

2. 先行研究

Heidi Dulay、Marina Burt 他 (1984) では、「真の伝達は教室内、教室外、いずれにおいても、理解可能なインプットをたくさん受け入れてはじめて生まれる」と述べられている。

松見・邱他 (2006) は、第二言語を学習する際は第一言語による刺激よりも、実際の事物や絵、イメージを利用するほうが記憶成績が良くなることについて、第二言語システムとイメージ・システムとの連結強化という観点から説明できると述べている。

『新版日本語教育辞典』(2005) では、教育機関などの所属する学習者の語彙習得は、「当初は教室における教授者の提示が主な機会であるが、しだいに、書きことば資料の自主的な参照や、教室外での使用経験の比重が増す」としている。

3. 調査

3.1 調査方法

日本の大学で学ぶ日本語非母語話者を対象にアンケート調査を行った。使用したアンケート用紙のフェイスシートには外来語の習得に影響を与える可能性があることについて問う項目を設け、120語の外来語は4件法(1. 知らない・使わない 2. 知っている・使わない 3. 知っている・ときどき使う 4. 知っている・よく使う)で認知度や使用頻度を問うものとした。

3.2 対象者

日本の大学で学ぶ日本語非母語話者 371名。学習者の日本語のレベルは初級終了レベル以上とした。

4. 分析

上野山 (2010) では、平均値が上位の20語(以下、「上位の語」^{注1})と下位の20語(以下、「下位の語」^{注2})を取り出し、レベル^{注3}、頻度数、カテゴリー、語源・語形、拍数、認知度・使用頻度、相関^{注4}を見ていった。ここではさらに学習者の学習期間を4つ(〈1〉1年以上2年未満、〈2〉

2年以上3年未満、〈3〉3年以上4年未満、〈4〉4年以上)に分け、平均値と認知度、相関を分析する。

5. 結果

5.1 上位の語

「上位の語」は全て初級教科書の語であった。平均値は上野山(2010)で調査を行った地域(英語圏^{注5}、中国、台湾、韓国、日本)の中で最も高く(図1)、学習期間別に見てもそれぞれの期間において他の地域より高い(図2)。4年未満では、学習期間が長くなるにしたがって値が高くなる傾向があるが、〈3〉と〈4〉では差が見られない。また、認知度は〈2〉～〈4〉で99.8%以上あり、〈2〉と〈3〉の平均値の差は使用頻度の違いによるものである。

語彙別では、9語に学習期間が長くなるにしたがって認知度や使用頻度が高くなる傾向が見られたが(図3)、6語は〈1〉<〈2〉<〈3〉>〈4〉で〈4〉の値が低くなっており(図4)、これらの語は短縮形や固有名詞などの他の語に言い換えられたりしているのではないかと考えられる。

学習期間別にフェイスシートの項目と語彙との相関を見ていくと、3年未満において《日本人の友人》《アルバイト》との相関が認められ、これらは教室の外で周囲の日本人と接する場面でも使用されることが多い語であると推察される。

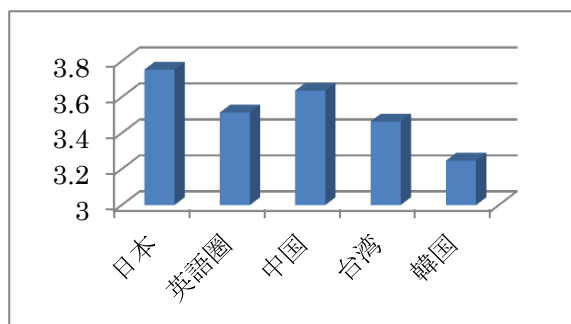


図1 「上位の語」平均値

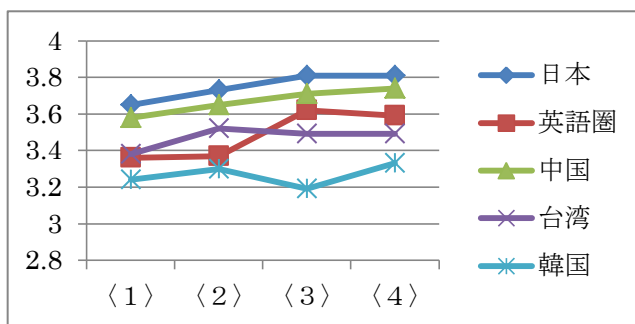


図2 「上位の語」学習期間別平均値

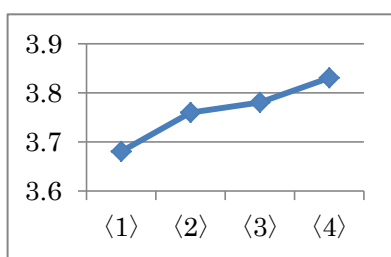


図3 「ドア」学習期間別平均値

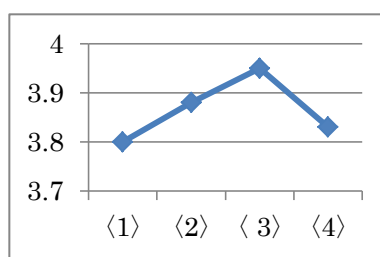


図4 「コンピューター」学習期間別平均値

5.2 下位の語

「下位の語」に初級教科書の中の語はなかった。平均値は他の地域より高い(図5)。学習期間が長くなるにつれて値が高くなる傾向があり、〈4〉において他の地域との差が最も大きい(図6)。

フェイスシートの項目との相関は、レベル2の7語中6語と《学習開始期》《来日期間》《アルバイト》にあった。レベル3の中では《学習期間》との相関がある語は13語中3語しかなかったが、《来日期間》とは11語あった(表)。

表 「下位の語」 相関がある項目数

	語彙数 (20 語中)	相関がある項目数		
		《学習期間》	《来日期間》	《アルバイト》
レベル2	7	6	6	6
レベル3	13	3	11	8

語彙別に〈1〉～〈4〉の平均値を見ると、1語〈図7〉以外は〈4〉の値が最も高くなっていた。また、その中の7語は学習期間が長くなるにしたがって高くなっていたが（図8）、それ以外は4年未満において学習期間と比例していなかった（図9）。相関は3年以上の学習者において《来日時期》《アルバイト》《テレビ》《音楽》《本や雑誌》《ゲーム》との間に見られた。このことから、ある程度学習が進み、日本語を理解できるようになってきた学習者が興味のあるものを見たり聞いたりすることや日常生活で使用するによって習得している可能性が考えられる。

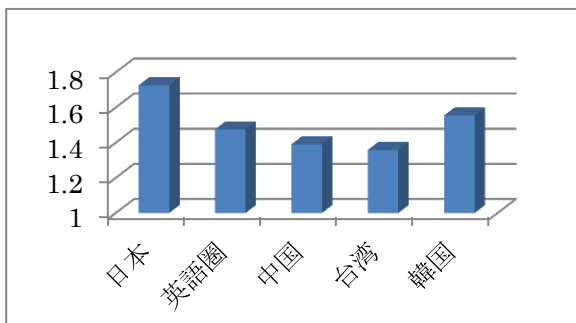


図5 「下位の語」 平均値

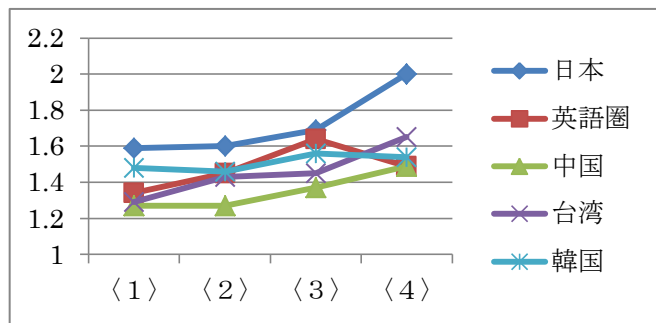


図6 「下位の語」 学習期間別平均値

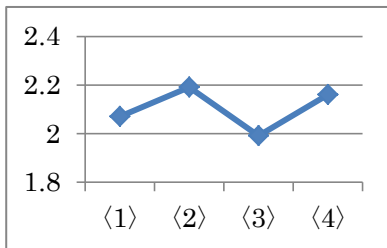


図7 「フリーペーパー」 学習期間別平均値

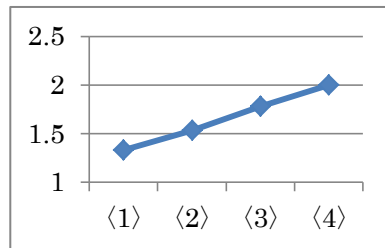


図8 「トートバッグ」 学習期間別平均値

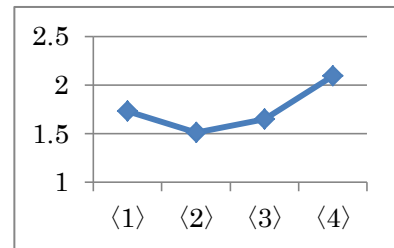


図9 「カミングアウト」 学習期間別平均値

6. まとめ

「上位の語」「下位の語」ともに同じ学習期間であっても日本の平均値は他の地域よりも高く、日本語が使用されている環境で生活していることの影響が見られる。また、日本にいて、実際に言葉が表す事物に接する機会があることも習得の要因として推察される。

初級教科書で学ぶ語は認知度も使用頻度も高く、その多くは学習が進むとともに使用される場面が増えていくと思われる。しかし、中には生活の中で使用されやすい語に言い換えられたりして使用頻度が下がっていくものもあると考えられる。

初級教科書にない語は認知度や使用頻度が低いが、学習期間が長くなると値が高くなる傾向もある。しかし、来日期間との影響がより多く見られ、日常生活の中で見たり聞いたりして認知し、自らが使用する場面があれば、学習期間に関係なく習得が進む可能性がある。

注：

注1：(順位が上のものから) コンピューター/コンピュータ、ペン、スーパー、テレビ、パン、ドア、ニュース、シヤワー、レポート、カメラ、チョコレート、プレゼント、ジュース、レストラン、エレベーター、ノート、アルバム、スポーツ、ボールペン、デパート

注2：(順位が下のものから) パワーハラスメント、ポータビリティ、スキミング、ワンセグ、ピッキング、カルパッチョ、ファスナー、ビラ、マイブーム、トートバッグ、リベンジ、カミングアウト、ノイローゼ、ベーグル、着メロ、マイクロ、コットン、エチケット、フリーペーパー、ビスケット

注3：アンケート調査を行った120語は次のように選んだ。

レベル1：初級教科書17冊中、多くの教科書で扱われていた語

レベル2：初級教科書では扱われていないが、『品詞別・レベル別 1万語語彙分類集』(1991)にある語

レベル3：『広辞苑』第6版(2001)に新しく載せられた語

注4：アンケート用紙のフェイスシートの項目と語彙との関係を見るため、ピアソンの積率相関係数を算出した。ここでは5%水準で有意である $p=\pm.20$ 以上のものに着目した。

注5：オーストラリア、アメリカ、カナダで実施した。

【参考文献】

石綿敏雄編(1990)『基本外来語辞典』東京堂出版。

上野山愛弥(2010a)「日本語学習者の外来語習得—地域別に見られる習得の傾向—」(『産業と経済』第24巻 第5号、奈良産業大学、pp.1-19

———(2010b)「英語圏の学習者に見られる外来語の習得—海外と国内で学ぶ学習者を対象とした調査の結果より—」(『言語と文化』第4号、京都外国語大学大学院外国語研究科、pp.17-26

———(2011)「中国の学習者に見られる外来語習得—海外と国内で学ぶ学習者を対象とした調査の結果より—」(『日本語教育方法研究会誌』Vol.18 No.2、日本語教育方法研究会、pp.10-11

小塩真司(2004)『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析—因子分析・共分散構造分析まで』東京図書。

国立国語研究所(1990)『外来語の形成とその教育』大蔵省印刷局。

———(2002)『定着度による外来語分類の試み』国立国語研究所。

国立国語研究所編(2004)『分類語彙表』増補改訂版 大日本図書刊。

専門教育出版編(1991)『品詞別・レベル別 1万語語彙分類集』専門教育出版。

谷内美智子(2002)「第二言語としての語彙習得研究の概観—学習形態・方略の観点から—」(『言語文化と日本語教育』2002年5月特集号 日本言語文化学会研究会 pp.155-169.

日本語教育学会編(2005)『新版日本語教育事典』大修館書店。

Heidi Dulay、Marina Burt 他著、牧野高吉訳(1984)『第2言語の習得』弓書房。

松見法男・邱學瑾他(2006)「語彙の習得」(『講座・日本語教育学』第3巻 スリーエーネットワーク。

新村出編(2008)『広辞苑』第六版 岩波書店。